

茨城労働局長による安全パトロールを実施

～安全週間を契機に更なる労働災害防止対策の徹底を呼びかける～

平成 29 年 7 月 3 日

茨城労働局（局長 西井裕樹）は7月3日、全国安全週間（7月1日～7日）に労働災害防止対策を更に徹底する取組として、西井労働局長がひたちなか市の(株)小松製作所茨城工場を訪れ、安全パトロールを実施しました。

茨城県内の5月末現在における休業4日以上災害は973件発生しており、前年同期と比較して58件（6.3%）増加しています。特に製造業では、291件発生しており、前年同期と比較して27件（10.2%）の大幅な増加となっています。

製造業の災害の特徴として、「はさまれ・巻き込まれ災害」が91件と最も多く発生しており、機械等による災害防止対策が最優先課題となっています。

こうした状況から、非定常作業における機械等の運転停止措置が確実に行われているか、確認することをはじめ、機械等による災害防止対策の徹底を呼び掛けることにしたものです。



写真は、組立工程の災害防止対策の状況を聞く西井局長

安全パトロールの当日は、鈴木工場長から工場で行っている様々な労働災害防止活動や「はさまれ・巻き込まれ災害」等の危険体感教育の説明を受けた後、従業員や関係者ら900名が参集した安全朝礼に出席しました。安全朝礼

で西井局長は、「日々実践していただいている災害防止活動を継続し、皆さんのまわりに潜在する見えない危険の芽を見つけ出し、これを組織で共有することがとても重要。地道な活動であるが、それらの危険の芽を一つひとつ摘んでいくという安全管理を引き続きお願いしたい」と訓話がありました。

続いて、関係者らと組立工場に移動し、茨城工場で生産しているリジットダンプトラック等の組立工程を安全パトロールしました。大型の建設機械の組立工程は高所作業が多いことから、安全に作業を行える専用の作業台を設けていることや、部品一つひとつが重量物であり、クレーン作業をなるべく減らし、安全な作業方法に改善していることなどを確認しました。また、フォークリフトの接触防止のため、車両の進行方向を青色のLEDライトで照らし、付近の歩行者等に注意喚起を行っている状況などを確認しました。

安全パトロール終了後は、さらなる安全管理の向上のため、作業台の高所作業（2 m以上）の表示の明確化などをアドバイスしました。

茨城労働局健康安全課

TEL:029-224-6215